

# 再評価結果

担当課：有料道路課

担当課長名：上野 進一郎

事業名	ひがしかんとう 東関東自動車道館山線 (木更津南 JCT～富津竹岡)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省及び東日本高速道路(株)
起終点	自：千葉県木更津市中烏田 至：千葉県富津市竹岡			延長	21 km	
事業概要	館山自動車道は、京葉道路、東京湾アクアライン、富津館山道路と連絡し、房総半島の高規格道路ネットワークを形成する高速道路で、沿線地域の産業、経済、文化、観光等の発展に重要な役割を果たすものである。					
H3年度事業化	H3年度都市計画決定		H10年度用地着手		H12年度工事着手	
全体事業費	約1,290億円	事業進捗率	78%	供用済延長	21 km	
計画交通量	13,200～19,600台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) 3.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 219/1,643億円 事業費：175/1,413億円 維持管理費：44/230億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 674/5,449億円 走行時間短縮便益：586/4,767億円 走行経費減少便益：64/485億円 交通事故減少便益：24/198億円	基準年	平成21年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C = 3.4 (交通量 +10%)		B/C = 2.8 (交通量 -10%)			
事業費変動	B/C = 2.9 (事業費 +10%)		B/C = 3.3 (事業費 -10%)			
事業期間変動	B/C = 3.1 (事業期間-1年)		B/C = 3.0 (事業期間+1年)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保(当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線又は新たなバス路線が期待できる)</li> <li>安全で安心できる暮らしの確保(三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる)</li> <li>災害への備え(緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する) 他13項目に該当</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	南房総地域の半島性を解消するとともに、災害時におけるライフライン確保で重要な役割を果たす路線であり、観光シーズンの休日等における交通量の大幅な増加への対応が急務であると、館山市長を会長とする東関東自動車道館山線・一般国道一二七号富津館山道路建設促進期成同盟会より要望されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成19年の平均交通量は10,000台/日であり、H17～H19年に109回の渋滞が発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成15年4月に木更津南JCT～君津間、平成19年7月に君津～富津中央間、平成17年3月に富津中央～富津竹岡間が暫定供用。残事業の内容は4車線化工事。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線供用であるが、既に4車線分の用地取得が完了している。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は満たしており、事業実施の目途が立っている。					
事業概要図	<p>東関東自動車道館山線 (木更津南 JCT～富津竹岡)</p>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。